

計画の名称	横須賀港における安全・安心対策に係る海岸の整備（防災・安全）														
計画の期間	令和02年度～令和04年度（3年間）											重点配分対象の該当			
交付対象	横須賀市														
計画の目標	台風や低気圧等に伴う、高潮（越波、浸水）等への対策、砂浜の侵食（護岸崩壊、越波）対策として、海岸保全施設を整備し、人命・財産を防護する。														
全体事業費（百万円）	合計（A＋B＋C＋D）		854	A	716	B	0	C	138	D	0	効果促進事業費の割合 C / （A＋B＋C＋D）		16.15	%

番号	計画の成果目標（定量的指標）			
	定量的指標の定義及び算定式	定量的指標の現況値及び目標値		
		当初現況値	中間目標値	最終目標値
		R2当初		R4末
1	浸水想定区域面積を15.6ha（想定区域内人口933人）（R2）から0ha（R4）へ減少させる。 浸水想定区域面積	16ha	ha	0ha

備考等	個別施設計画を含む	-	国土強靱化を含む	○	定住自立圏を含む	-	連携中枢都市圏を含む	-	流域水循環計画を含む	-	地域再生計画を含む	-

A 基幹事業																			
基幹事業（大）	番号	事業 種別	地域 種別	交付 対象	直接 間接	事業者	種別 1	種別 2	要素となる事業名 （事業箇所）	事業内容 （延長・面積等）	市区町村名 / 港湾・地区名	事業実施期間（年度）					全体事業費 （百万円）	費用 便益比	個別施設計画 策定状況
		一体的に実施することにより期待される効果																	
		備考																	
海岸事業	A09-001	海岸	一般	横須賀市	直接	横須賀市	高潮	-	横須賀港海岸（大津・馬堀地区）	護岸 L=517m	横須賀市	■	■	■			349		-
	A09-002	海岸	一般	横須賀市	直接	横須賀市	侵食	-	横須賀港海岸（野比地区）	突堤1基、離岸堤1基	横須賀市	■	■	■			367		-
											小計						716		
											合計						716		

C 効果促進事業																			
基幹事業（大）	番号	事業 種別	地域 種別	交付 対象	直接 間接	事業者	種別 1	種別 2	要素となる事業名 （事業箇所）	事業内容 （延長・面積等）	市区町村名 / 港湾・地区名	事業実施期間（年度）					全体事業費 （百万円）	費用 便益比	個別施設計画 策定状況
		R02 R03 R04 R05 R06																	
		一体的に実施することにより期待される効果 備考																	
海岸事業	C09-001	海岸	一般	横須賀市	直接	横須賀市	高潮	-	大津地区 飛沫防止帯整備	飛沫防止帯 L=517m	横須賀市	■	■	■			127		-
		植樹帯等を整備することで、高潮時における道路等背後地への飛沫被害の軽減効果が期待できる。																	
	C09-002	海岸	一般	横須賀市	直接	横須賀市	侵食	-	野比地区 汀線変化モニタリング調査	汀線等のモニタリング調査	横須賀市	■	■	■			11		-
		汀線変化についてモニタリング調査を実施し、整備中の侵食・堆砂の状況を把握することで、柔軟な整備計画の見直しが図れコスト縮減や整備順序の変更による背後地の被害軽減効果が発揮される。																	
											小計						138		
											合計						138		

事後評価

○ 事後評価の実施体制、実施時期

事後評価の実施体制

学識経験者等からの第三者意見聴取

事後評価の実施時期

令和7年3月

公表の方法

市ウェブサイト内での公表

○ 事業効果の発現状況

定量的指標に関連する
交付対象事業の効果の発現状況

- ・高潮対策（大津地区）について、令和4年度に整備が完了したことから、所要の高さを確保でき、定量的指標を達成した。
- ・侵食対策（野比地区）について、令和5年度に整備が完了したことから、定量的指標を達成した。

定量的指標以外の交付対象事業の
効果の発現状況（必要に応じて記述）

- ・離岸堤群は背後水域への堆砂効果を有するため、背後地の侵食防護の効果を発揮していると考えられる。

○ 特記事項（今後の方針等）

- ・高潮対策（大津地区）については、海岸保全施設の長寿命化計画に基づき、適正な維持管理に努める。
- ・侵食対策（野比地区）については、学識経験者等からの意見を踏まえ、モニタリング調査を継続しつつ海岸保全施設の長寿命化計画に基づき、適正な維持管理に努める。

○ 目標値の達成状況			
番号	指標（略称）		
	目標値 / 実績値		目標値と実績値に差が出た要因
1	最 終 目標値	0ha	
	最 終 実績値	0ha	

横須賀市社会資本総合整備計画に対する事後評価について

横須賀市で策定された社会資本総合整備計画（計画の名称：横須賀港における安全・安心対策に係る海岸の整備（防災・安全）、計画の期間：令和2年度～令和4年度）に対する事後評価について、下記の内容が別添のとおり妥当であることを確認しました。

記

1. 事後評価の実施体制、実施時期
2. 事業効果の発現状況
3. 特記事項（今後の方針等）
4. 目標の達成状況

令和7年 2 月 26 日

日本大学理工学部 海洋建築工学科

特任教授

櫻井 慎一

横須賀市社会資本総合整備計画に対する事後評価について（別添）

1. 事後評価の実施体制、実施時期

事業完了後、速やかに公表等行うこと。

2. 事業効果の発現状況

事業が完了し、背後地への被害等がないこと、また、必要な天端高等を確保できていることなどを踏まえ、効果が発現していると確認した。

3. 特記事項（今後の方針等）

両施設とも海岸保全施設の長寿命化計画に基づき、適切に維持管理をする必要がある。なお、野比地区においては、引き続きモニタリング調査や汀線測量等の必要な調査を実施し、経過を観察していくべきと考えられる。また、経過観察の結果に応じた対策等が必要である。

4. 目標の達成状況

各事業が完了したことにより、浸水想定区域面積が 15.6ha から 0 ha へ減少していることを確認した。

5. その他

大津地区の海岸高潮対策事業については、結果的に景観や利用に配慮した構造となっていると見受けられた。野比地区の海岸侵食対策事業についても、消波ブロックを統一するなど、景観への配慮が見受けられた。今後、離岸堤の背後地（砂浜）が有意義に利用されることを期待する。